

# 清政

神道政治連盟京都府本部会報  
平成25年6月19日発行(年2回発行)



Shinto Association of  
Spiritual Leadership

御製  
サイパンに  
戦ひし人その様を  
浜辺に伏して  
我らに語りき



就任にあたって  
今というとき  
サイパン島・グアム島戦没者慰霊参拝団報告  
京都府戦没英霊追悼慰霊祭・時局講演会  
事務局からの活動報告  
沖縄「京都の塔」・靖國神社慰霊祭報告

# 54

## 「就任にあたって」



神道政治連盟京都府本部  
本部長 林 秀俊

やすらかにねむれとぞ思ふ君のため  
いのちささげ志ますらをのとも

香淳皇后が昭和十三年にお詠み  
になったこの御歌には、貴い命を捧げ  
わが国をお守り頂いた英霊に、「ど  
うか安らかにお鎮まり下さい」と祈  
られた、深くやさしい御心が溢れて  
います。御皇室は、今も昔も変わら  
ず常に私たち国民に心をお寄せ下  
さること有り難き極みであります。

当本部では創立四十周年事業の  
一環として、先の戦争において最多の  
戦死者を出した中部太平洋方面で  
の慰霊参拝を実施しました。二月二  
十日には、北マリアナ連邦サイパン島  
に建立された「中部太平洋戦没者の  
碑」において、サイパン市長及び在サ  
イパン領事参列のもと慰霊祭を斎

行し、祭儀中の慰霊の詞において、謹  
んでこの御歌を英霊とすべての戦争  
犠牲者に捧げ、永遠に感謝と追悼の  
誠を捧げることをお誓い申し上げ  
ました。

さて安倍首相が、戦後レジームか  
らの脱却を掲げた第一次政権では、  
残念ながら志半ばで病に斃れ、中途  
に終わった日本再生に向けた諸政策  
も、再度国民の強い信託を受けた第  
二次政権において必ず成し遂げられ  
るものと確信しております。神政連  
の綱領宣言は、「わが日本国の現状  
は、内に外に誠に憂念禁じ難きもの  
あり」と始まりますが、設立より四  
十五年を経た今日にあつても、国の  
内外では憂慮する事案が頻発してい  
ることは、まことに残念でなりませ  
ん。年初早々には我が国境を守る護  
衛艦が、中国艦船にロックオンされ  
るなど、中国の無法ぶりは目に余るも  
のがあり、拳句の果てに中国共産党  
機関紙人民日報は、尖閣諸島だけで  
なく沖縄県全体の領有権まで主張  
する論文を掲載しました。長らく  
続いた日本の弱腰外交に輪をかけた  
国益無視の売国奴前政権が、更に中  
国の覇権主義を助長させ、韓国、北  
朝鮮をも増長させています。



昨年未、三年三カ月ぶりに政権与党に返り咲いた自民党への期待は、高い支持率に現れています。従来の自民党ではなく、自虐史観にとられない安倍政権であるからこそ、アベノミクス効果も相まってさらに期待度は高まっています。自民党の党是である憲法改正への論議も深まり、改正の如何は今夏の参議院選挙結果にかかっています。

しかし我々神道家が、やみ雲に世論に乗じ、憲法改正について声高々と議論することが果たして相応しいことなのか、よく考える必要があります。まずは国民のために常に御心をお寄せ頂く御皇室に關わることを最重要であり、万世一系の天皇を頂く我が国に相応しい法整備を望むところです。こうした政策を実現し、正しい日本

の姿形に整え直すためにも、来る参議院選挙において信頼して負託できる政治家を見極め、選出しなければなりません。その期待に堪えて下さる政治家とは、私たち神道政治連盟が推薦する比例全国区のありむら治子氏であり、京都選挙区の西田昌司氏であると確信しております。

さて当本部では、本年四月に役員改選が行われ、四期目の本部長として就任させて頂きました。新たな役員共々力を合わせて当連盟の使命と役割をさらに追求して参りたく存じます。何卒倍旧のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



# 日本のこころを取り戻そう！日本再生講演会 京都大会

日時：平成二十五年二月十日（日） 午後一時

場所：リーガロイヤルホテル京都

本年夏は、参議院議員選挙が行われます。我々神道政治連盟が推薦する「ありむら治子」議員も三期目当選を目指し、多忙な政治活動の間を縫って選挙準備に奔走しています。この度神道政治連盟近畿地区協議会では、ありむら議員の近畿地区での知名度を高め、その政治信条や活動の内容をより多くの有権者に知って頂くこと、近畿二府四県リー形式で「日本再生講演会」を開催しました。本欄では、当日の

講演内容と、応援に駆けつけて頂いた西田昌司議員の応援演説を、要約して掲載します。

## ありむら治子先生演説

私は、縁あつて初当選の時から神道政治連盟さまに応援頂きました。「神道精神を国政に、日本のこころを政策に」という思いで、しっかりとした国家観と、地に足の付いた生活感を併せ持ち、命の重みと家族の絆と国家の尊

厳を大切にしながら、二期十二年国政に携わらせて頂きました。私が最も力を入れてきた事は、国家の安全保障についてです。安全保障の英訳は「セキュリティ」ですが、この本来の意味は、「確かなにする。確かなものにする。不安のないものにする」という意味です。国家の根幹的な基盤を「確かなもの」にしていく事こそ私の政治活動の原点です。

今や軍事、経済ともに大国となった中国との関係は今後も大きな課題です。中国は様々な干渉をしてくるのですが、戦争の始まりはいつも局所的な小競り合い、偶発的な事から始まります。二度と悲惨な戦争に発展するような事はあつてはなりません。爾来日本は海洋国家であるという視点が欠けていました。古より「海を制するものは世界を制する」と言われていますが、今も変わりません。日本の島嶼数は六八五二にのぼる世界でも有数の海洋国家です。この視点をもつと





## Reflect the times

広げなければなりません。伝統的に内陸国家であった中国は、ここ数十年海洋国家を目指し、とりわけアジアの覇者となろうとする意図を隠さなくなってきました。これに対抗するには、抑止力が大切ですが、今はその力が効いていません。戦争をしない国だからこそ、日米関係を修復させ、抑止力を高めねばと確信しています。

皇統問題では、皇統を変質させる女性宮家の件で国会質問をさせて頂き、当時の藤村官房長官の皇統に関する無知ぶりを暴き、女性宮家が天皇陛下の御意思ではないと言う答弁を宮内庁長官より引き出しました。

明日は建国記念日です。世界各国あらゆる国は、自国の建国記念日を非常に大切にしてお祝いしますが、残念ながら我国では未だ政府主催の式典は未催行です。しかし今回自民党の公約に、政府主催の建国記念の日式典実施を盛り込みました。是非安倍政権の間にやり遂げたいと思っております。実は我国での建国記念の日をお祝いする習慣は、まだ四〇年ほどの歴史しかないのです。幕末から明治にかけて、アジアの

国々が次々と白色人種の植民地になっていくのを目の当たりにし、国力を上げ国民の心をつなげるため自国の成り立ちを意識しはじめたのです。ちょうどその頃唱歌「蛍の光」がつくられました。「蛍の光」には二番三番があるのをご存じでしょうか。北方領土から沖繩の島嶼まで、日本の大事を守りなのだという国土意識を持って、海外列強の侵略に対抗するようしつかり教育をしていかなければならないという、当時の国民の心意気がよく現れています。しかし戦後GHQによってこの三番四番の歌詞は教科書から消されました。占領政策で日本は精神の背骨を抜き取られていくのです。

## 西田昌司先生応援演説

有村先生は、日本人の素直で優しい誠実な心をそのまま国会に持ち込んで働いて頂いています。若い感覚と素直な心で皆さまの代弁者にふさわしいが、是非とも次はもつと票を伸ばして頂きたい。私と有村先生は安倍総理の総

裁選挙推薦人に名を連ねているわけですが、まさに神風が吹き、強硬態度を増す中韓に対し、強力なリーダーシップを求める声が大きくなり、安倍政権が実現しました。さらに、安倍総理が唱える憲法改正問題などは、早急に取り組まねばなりません。声を大にするほどマスコミの反発は強くなります。マスコミは、GHQの占領が終ったあともその政策をそのままの仕組み・価値観・言葉で今も続けています。それが一番よく表れているのは、戦争の名称、「大東亜戦争」と「太平洋戦争」との違いです。日本はアジアの解放・共栄を目的とし「大東亜戦争」と名づけて戦いました。これ



は正しいとか間違っているとか言う問題ではなく、そういう意味があつたという事実です。「太平洋戦争」とはアメリカの太平洋覇権を意味する呼称です。

こういったことをはじめ、我々はもう一度自国の誇り、価値観、歴史観を取り戻さねばなりません。歴史の真実をしっかりと見ると、我々が教えられてきた歴史とはかなり異なる。なぜこうなつたかを一人ひとりが疑問を持って考え直す事によって正しい歴史が甦ってくるのです。安倍総理が訴えた「戦後レジームからの脱却」とはそういう事なのです。そうして日本は本当の意味での独立国家になる事が出来るのです。

## 「日本の心を取り戻そう!!日本再生講演会」京都大





神道政治連盟京都府本部創立四十周年記念事業

# サイパン島・グアム島戦没者慰霊参拝団

去る、二月十九日から二十二日までの四日間にわたり、先の大戦において最も多くの英霊が散華された中部太平洋方面サイパン島において、当会創立四十周年記念事業「サイパン島・グアム島戦没者慰霊参拝」が実施された。

この参拝団には林秀俊本部長をはじめ、府神社庁文室隆紀、宇佐美伸二、奈良島正倫各役員、府神社総代会からは横山義雄、竹之内実両副会長、府敬神婦人連合会からは花房昭子代表理事、また京都女子神職会からは六人部美恵子会長など総勢三十九名が参加した。

今回の慰霊祭参拝にあたっては、林本部長の参加者全員で戦没者へ慰霊の誠を捧げたいとの強い思いから、神職の資格を持つ参加者全員が浄衣、白衣白袴などの装束を各自持参して全員で慰霊祭を奉仕した。

## 第1日目

初日は、移動のみの行程であった。一行は午前七時に、バスで京都駅を出発、関西国際空港で結団式を行った後、空路グアム国際空港を経由してサイパン国際空港へ到着した。一行が空港からほど近いワイエスタリゾート&スパサイパンに到着したのは京都を発つてから十二時間後の午後七時過ぎであった。

室川会計責任者以下精鋭五名は、休む間もなく翌日の慰霊祭の饗を求め、タクシードで地元の食料品店に向かった。また、諸般の事情によりグアムからサイパンへの飛行機が別便となった林本部長、花房副本部長ら四人は二時間以上遅れてのチェックインとなった。

## 第2日目

### 慰霊祭参拝

慰霊祭当日の天候は晴れ。祭員は南国特有の蒸し暑さの中、汗を拭いながらの奉仕となった。

祭員は午前八時にホテルを出発、十分ほどで祭場の日本政府が建立した中部太平洋戦没者慰霊碑前に到着した。すでに到着していたJTB現地スタッフはテント・音響設備などを舗設。祭員らはそれぞれ慰霊祭の準備を進めた。午前九時には参列者も到着し、饗や乾光孝氏の献茶の準備、また祭場の舗設も整った段階で習礼を執り行い、慰霊祭に向けて気持ちを落ち着かせた。

午前十時、サイパン市長ドナルド・ラロレス様、外務省在サイパン駐在官事務所長樋口勉様をこ来賓に迎え、「サイパン島中部太平洋方面戦没者追悼慰霊祭」が斎行された。

花房義久齋主以下祭員二十三名による慰霊祭は厳粛に斎行され、参列者が心一つにして国歌斉唱、大祓詞奏上、「海ゆかば」の合唱は天高く響き渡った。







黙祷の後、現地特有のスコールが降った。慰霊祭の最後、サイパン市長が「祭典中に私たちはすし雨にいました。その雨はまさにこの場所での祭典を受けられた御霊様が、皆様方の祈りに対して降らせた涙雨であり、全ての御霊様が喜んでいらつしやる雨です。」とスピーチされた。私は胸が熱くなると共に、この慰霊祭に参列できたことを心の底から喜び感謝した。

一行は慰霊祭に引き続き、バンサイクリフへ移動、そこで全員で拝礼し哀悼の誠を捧げた。参加者は女子神職会が丹誠込めて作製した折り鶴を激しい風と波が打ち寄せる海に捧げ、御霊の安らかならんことを祈った。

午後からは彩帆香取神社を参拝。その後、日本軍爆弾格納庫跡などサイパンの戦跡を見学した。午後六時からは直会を開催し、慰霊祭の無事斎行を祝い益を交わした。

**第3日目**

午前九時にホテルを出発し、空路グアムへ移動。タロフオフォの滝や横井ケイプを見学するなど有意義な二日を過ごした。

**最終日**

午前十時にホテルを出発。平和慰霊記念公園で林本部長と竹之内府神社総代会副会長が代表で献花をした後、竹若佳代子氏の献笛に合わせて全員で黙祷を捧げた。

恋人岬、ショッピングモール等を散策した後、午後五時の飛行機でグアム国際空港を後にした。午後八時には無事関西国際空港に到着し、解団式が執り行われた。

今回の海外慰霊顕彰事業は、神政連京都府本部が設立されて初めてということもあり、すべてが順調とはいかないまでも、遠く祖国を離れた地で散華された英霊や多くの戦没者に対し、その地に赴いて慰霊祭を斎行できたこと、そして心づきに感謝と慰霊の誠を捧げることができたことは大変意義のあることであり、今後もこのような海外での慰霊顕彰事業を続けていく使命を痛感した。

この度の参拝団にご参加頂いた皆様、慰霊祭餽料をご奉献頂いた皆様、参加が叶わずとも祭具調製にあられた堀川副幹事長、また重責を無事に果たされた中森圭治主事に衷心より感謝申し上げ、報告とする。

副幹事長 神尾和俊

**サイパン島中部太平洋方面  
戦没者追悼慰霊祭  
式次第**

先ず祭典に先立ち国歌斉唱

次に修祓

次に斎主三拝

次に祭員饌を供す

次に斎主祭詞を奏す

次に本部長慰霊の詞を白す

次に大祓詞奉唱 諸員奉唱

次に常水遠の舞奉奏

次に海ゆかば合唱 諸員合唱

次に黙祷 諸員黙祷

次に斎主玉串を奉りて拝礼 諸員別拝

次に参列者代表玉串を奉りて拝礼 参列者別拝

次に諸員献花を奉りて拝礼

次に祭員饌を撤す

次に斎主三拝 諸員之に敬ぶ





# 京都府戦没英霊追悼慰霊祭・時局講演会

と き 平成二十四年十月二十六日

場 所 京都ガーデンパレス

本年も、緑豊かな京都御所を  
 間近に望む京都ガーデンパレスに  
 おいて、本年度第九回目を数える  
 京都府戦没英霊追悼慰霊祭及  
 び、京都府神社庁、京都府神社総  
 代会、神政連京都府本部共催に  
 よる国民精神昂揚運動合同研修  
 会時局講演会が開催された。

慰霊祭は、例年の如く先ずは  
 国歌斉唱「海ゆかば」合唱に始  
 まり、竹内副本部長斎主のもと、  
 府内各社から差遣された祭員、  
 伶人、舞人のご奉仕により、多数  
 の参列者が見守る中、いとも厳肅



のうちに斎行された。

本年度は、創立四十周年記念  
 事業の締めくくりとして、前ペー  
 ジで紹介した通り「サイパン島グ  
 アム島戦没英霊慰霊参拝団」が  
 結成され、彼の地で厳肅に慰霊祭  
 を斎行した。また、「沖繩京都の  
 塔」での慰霊祭、さらに靖國神社  
 での「京都府関係祭神慰霊祭」を  
 斎行するなど、積極的に「英霊顕  
 彰事業」を行っている。これは、先  
 の戦争を「美化」するなどという、  
 低次元の行為ではなく、我が国の  
 戦後の繁栄と平和の享受は、偏に  
 遠く祖国を離れお国のために散っ  
 ていった英霊の犠牲の上に成り立  
 つことを、いつ何時も、未来永劫忘  
 れてはならぬとの、強い意志の表  
 明である。

引き続き同所にて国民精神昂  
 揚運動合同研修会・時局講演会  
 が開催された。

本年の講演講師には、神道政治  
 連盟主席政策委員・日本会議常  
 任理事であり、憲法及び皇室研  
 究家の田尾憲男先生をお招きし、  
 「『万世二系の天皇』といわゆる『女

性宮家』創設問題」と題しご講演  
 頂いた。

小泉政権の下、現行憲法と皇  
 室典範の下では、近い将来男子皇  
 族が減少していく虞があるとし  
 て、「皇室典範に関する有識者会  
 議」が創設され、女性または女系  
 天皇の可能性も取りざたされた  
 が、幸いにして悠仁親王殿下の御  
 生誕により鎮静化した。しかし、  
 今回民主党政権下において、天皇  
 皇后両陛下の御公務の御負担軽  
 減を口実に、またぞろ「女性宮  
 家」創設案が急浮上し、賛否両論  
 様々な論議が行われている。「女  
 性宮家」は、将来的に女性・女系天  
 皇に繋がる可能性が高く、また場  
 合によっては皇統以外の男子が皇  
 族となる可能性も有り、皇統継  
 承の变革は避けられず到底容認  
 出来るものではない。今「万世二  
 系の皇室」の護持か、「皇室が存続」  
 しさえすればよいのかが問われて  
 いる、と締めくくられた。

副幹事長 堀川宏史





あしあと

事務局からの活動報告(平成二十四年十二月〜平成二十五年六月)

12月 師走	平成24年 12月1日: ●洛西支部神宮大麻曆頒布始奉告祭並び総代会総会 本部長出席(於 松尾大社) 12月3日~5日: ●天皇皇后両陛下御奉送迎(於 京都市内) 12月8日: ●神社庁教化委員会並び関係団体代表者懇話会 林本部長他関係者出席(於 京都府神社会館) 12月16日: ●第46回衆議院議員選挙 12月17日: ●衆議院議員当本部推薦当選者祝電打電 12月18日: ●神道政治連盟近畿地区協議会 本部長以下4名出席(於 ホテルグランヴィア京都) 12月19日: ●京都府本部役員会 林本部長以下25名(於 京都プライトンホテル) 12月23日: ●天長節奉祝日本会議京都式典 74名(於 京都ガーデンパレス)
1月 睦月	平成25年 1月25日: ●神道政治連盟役員会 林本部長出席(於 神社本庁) 1月28日: ●京都府神社庁新年神職総会関係団体助成金交付式 林本部長出席(於 京都府神社会館) ●サイパン島・グアム島慰霊参拝団参加神職説明会 林本部長以下18名(於 京都府神社会館)
2月 如月	2月5日: ●サイパン市長表敬訪問 本部長以下5名出席(於 京都市役所) 2月8日: ●日本の心を取り戻そう旧日本再生講演会 滋賀大会 中嶋事務局長出席(於 栗東芸術文化会館) 2月9日: ●日本の心を取り戻そう旧日本再生講演会 兵庫大会 中嶋事務局長出席(於 シーサイドホテル舞子ビラ神戸) 2月10日: ●日本の心を取り戻そう旧日本再生講演会 京都大会 370名出席(於 リーガロイヤルホテル京都) 2月11日: ●建国記念の日奉祝京都式典 関係者出席(於 京都府神社会館) ●ありむら治子近畿6大会反省会 林本部長、中嶋事務局長出席(於 新大阪美々町) 2月13日~14日: ●お伊勢さん初まいり 林本部長出席(於 神宮) 2月16日: ●佐藤正久参議院議員 新春の集い 梶幹事長出席(於 グランドプリンスホテル京都) 2月18日: ●京都府神社庁祈年祭 林本部長参列(於 京都府神社会館神殿) 2月19日~22日: ●サイパン島・グアム島戦没者慰霊参拝団 本部長以下39名参加(於 サイパン島・グアム島) 2月22日: ●植田喜裕京都府議会議員後援会 中嶋事務局長出席(於 ウェスティン都ホテル) 2月24日: ●渡辺邦子京都府議会議員を囲む会 林本部長出席(於 ウェスティン都ホテル)
3月 弥生	3月6日~7日: ●第11回神道政治連盟時局対策研修会 藤森副幹事長出席(於 自由民主党本部) 3月11日: ●京都府本部四役会 本部長以下7名(於 京都府神社会館) 3月13日: ●京都府本部役員会 本部長以下15名(於 京都府神社会館) 3月23日: ●船井支部神社総代会総会 林本部長出席(於 南丹市国際交流会館) ●西田昌司京都政経パーティー 5名出席(於 ANAクラウンプラザホテル京都) 3月26日: ●京都府神社総代会総会 林本部長出席(於 ホテルグランヴィア京都) 3月28日: ●靖國神社慰霊参拝団 本部長以下21名参加(於 靖國神社) 3月29日: ●臨時代議員会 54名出席(於 京都府神社会館)
4月 卯月	4月14日: ●植田喜裕京都府議会議員講演会並び懇談会 梶幹事長出席(於 京都プライトンホテル) 4月16日: ●京都府本部新旧役員会 林本部長以下関係者出席(於 リーガロイヤルホテル京都) 4月17日: ●京都府神社庁例祭 林本部長出席(於 京都府神社会館) ●神社庁並び総代会関係者合同会議 林本部長出席(於 京都府神社会館) 4月23日: ●神道政治連盟表彰委員会 林本部長出席(於 神社本庁) 4月24日: ●神道政治連盟役員会 林本部長出席(於 神社本庁)
5月 皀月	5月6日: ●京都府神社洛東支部総代会総会 林本部長出席(於 魚善) 5月11日: ●さくらい泰広京都市議員を囲む会 林本部長出席(於 グランドプリンスホテル京都) 5月24日: ●参議院議員西田昌司国政報告会・ありむら治子支援活動 林本部長以下関係者出席(於 シルクホール) 5月29日: ●京都府本部綱紀委員会(於 リーガロイヤルホテル京都) ●京都府本部役員会(於 リーガロイヤルホテル京都)
6月 水無月	6月1日: ●ありむら治子選挙対策会議 林本部長以下関係者出席(於 護王神社) 6月3日: ●神道政治連盟近畿地区協議会(於 北野天満宮) 6月11日: ●神道政治連盟役員会 林本部長出席(於 神社本庁) ●神道政治連盟本部長事務局長連絡会 林本部長 中嶋事務局長出席(於 神社本庁) ●神道政治連盟・神道政治連盟国会議員懇談会合同祝賀会 林本部長以下4名出席(於 ホテルニューオオタニ) 6月12日: ●神道政治連盟中央委員会 林本部長以下5名出席(於 神社本庁) ●ありむら治子総決起大会長 林本部長以下5名出席(於 ホテルニューオオタニ) 6月19日: ●第27回会員大会開催(於 リーガロイヤルホテル京都) ●清政第54号発行

御製を拝して  
サイパンに  
戦ひし人その様を  
浜辺に伏して  
我らに語りき

天皇皇后両陛下は、平成十七年六月二十七日二十八日の両日、先の大戦で民間人を巻き込んだ戦闘が行われた米自治領北マリアナ諸島のサイパン島を御訪問遊ばされ、日本政府が建てた「中部太平洋戦没者の碑」に花を手向け祈りを捧げられました。また、日本兵や民間人が投降を拒んで身を投げた「スーサイドクリフ」や「バンザイクリフ」などを回られ、それぞれ慰霊されました。両陛下は、戦後五十年にあたる平成七年より、戦没者を慰霊し、平和を祈念する「慰霊の旅」として、広島・長崎、沖縄などを御訪問されておられ、今回のサイパン訪問もその一環であり、特に戦後六十年にあたって、両陛下の強い思い召しにより実現しました。友好親善ではない慰霊目的だけの海外御訪問は初めてでした。同島は第2次世界大戦後に日本の委任統治領となり、砂糖作りなどで多くの日本人が移住し繁栄しました。大東亜戦争が開戦し、戦況が悪化した昭和十九年六月十五日に米軍が上陸して地上戦が始まり、日本軍は七月七日の突撃を最後に玉砕。日本側は軍人・軍属四万三千人、民間人二万二千人、米側もテニアン島と合わせ約五千人が犠牲になりました。サイパン島の陥落でB29による本土空襲が本格化し、広島と長崎への原爆はテニアン島で搭載され離陸しました。(史)



# 編集室だより

去る2月19日、当本部創立40周年記念事業「サイパン島・グアム島戦没者慰霊参拝」が実施された。私も参加者らと心一つに、遠く祖国を離れた地で散華された英霊や多くの戦没者に対し、感謝と慰霊の誠を捧げた。

そこで強く感じたのは、その“地”に赴くことの重要性である。その地を踏み、呼吸し、耳を澄ませる。何かを感じられる筈である。

それは何物にも代え難い人生の宝でもある。

『百聞は一見にしかず』ということわざ。これには続きがある。『百見は一考にしかず』、『百考は一行にしかず』、『百行は一果にしかず』である。いくら見ても、考えなければ前に進まない、どんなに考えても「行動」を起こさなければ前には進まない、どんなに行動しても、成果を残さなければ成長しない。

今回の記念事業は、40年に亘る先輩諸兄の絶え間ない努力の賜であり、大きな成果である。4期目を迎えた林秀俊本部長を中心に、今後も様々な成果を残し、さらに成長し続けることを信じて疑わない。(神)

●ご意見ご感想をお待ちしています。  
投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールでお願いします。  
宛先/神道政治連盟京都府本部「清政」編集室  
ファックス/075-863-6664  
電子メール/  
info@kyoto-jinjacho.or.jp



## 清政 第54号

発行日 平成25年6月19日(水)  
発行所 神道政治連盟京都府本部  
〒616-0022京都市西京区  
嵐山朝月町68-8  
電話 075-863-6677

神政連ホームページをぜひご覧ください。  
<http://www.sinsairen.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション

昨年十一月二十九日、三十日の二日間に亘り、沖縄「京都の塔」慰霊参拝団を結成。林本部長以下団員十八名は伊丹空港から空路沖縄入りし、まず波上



## 沖縄「京都の塔」慰霊参拝

宮を参拝。渡慶次宮司様よりご挨拶を戴いた。その後、バスにて沖縄戦最後の激戦地であり、京都府出身の英霊が多数戦つた、嘉数高台公園に坐します「京都の塔」の前で、花房副本部長斎主のもと慰霊祭を斎行。本年も京都女子神職会より松井、竹若両会員のご奉仕による「常永遠の舞」も奉納され、慰霊祭は雲天の中、滞りなく厳粛に斎行された。祭典終了と共に降り出した大粒の雨は、そこに眠る英霊の御心のようにも感じられた。

二日目は、沖縄本島海洋博公園内の美ら海水族館、名護の泡盛酒造所を見学後、米軍普天間基地の移転先として候補地となった辺野古ビーチを視察した。現地には所謂反対派の監視用テントが建てられており、早朝から午後四時ごろまでの間、そのテントで監視を行うとともに、訪問者に反対運動の活動を行っている、バスガイドより説明を受けた。

一行は辺野古を離れ一路那覇空港より伊丹へ。その後参加者全員無事に帰京した。本年で十二回目を迎えるこの「京都の塔」での慰霊祭であるが、公園の使用申請から祭具・装束に至るまで毎回ご心配をいただいている波上宮の渡慶次宮司様をはじめ、職員の皆様に改めて衷心より感謝申し上げます。

去る三月二十八日、本年は日帰りの日程で第九回靖國神社慰霊参拝団を二十一名の参加者で結成し上京した。東京駅到着後駅構内で昼食をとり、タクシーに分乗して靖國神社へ。全国的に桜は早咲きとの事で、勿論靖國神社境内の桜も満開。本当に綺麗だった。

午後零時三十分、先ず拝殿で修祓を受け、本殿に昇殿。厳かに京都府関係祭神慰霊祭が斎行された。この慰霊祭には、京都府神社庁田中恒清庁長様にもご参列頂き、田中庁長、林本部長、竹之内総代会副会長が玉串を奉奠、参加者一同列拜した。更には参集殿で徳川康久

宮司様にご挨拶を頂戴した。ご多忙にもかかわらず貴重なお時間をお割り頂いた田中庁長・徳川宮司様に感謝申し上げたい。

祭典終了後、二年前に当本部が献木した、河津桜の前で記念撮影し靖國神社を後にした。

その後、一行はありむら治子参議院議員表敬訪問の為、参議院会館へ移動。同館と国会議事堂の見学をした。また、先生のお取り計らいで参議院議員厚生労働委員会を傍聴させて頂くこととなり、傍聴席に至るまでセキユリティを預けての傍聴となったが、このような貴重な経験は中々出来ず、参加者ら

は委員会での議論を真剣な眼差しで傍聴した。その後、一行は東京駅へ向かい帰路に着いた。

事務局 中森圭治



靖國神社京都府関係祭神慰霊祭

は委員会での議論を真剣な眼差しで傍聴した。その後、一行は東京駅へ向かい帰路に着いた。

事務局 中森圭治